

# 総合教育会議資料

伊丹市教育委員会  
令和5年(2023年)6月30日

# ICT教育の現状と成果

## 伊丹市における教育情報化への取組



### ○ 令和元年度

- ・ 1,000台のタブレット端末を導入
- ・ 「伊丹市教育の情報化推進計画」策定(R2. 2)

### ○ 令和2年度

- ・ 1人1台タブレット端末整備完了(約17,000台のタブレット端末を追加)
- ・ 高速大容量ネットワーク環境の整備
- ・ オンライン授業の開始
- ・ 授業支援システム(スクールタクト)の活用
- ・ 教職員のICT活用指導力の向上

### ○ 令和4年度

- ・ デジタル教材(ドリルパーク)を導入 (小学校:国算社理 中学校:国数社理英)
- ・ 学習eポータル(L-GATE)を活用したMEXCBTの活用
- ・ デジタル教科書の導入 (全校-英語(全校)、数学or理科(半分))



# ICT教育の現状と成果

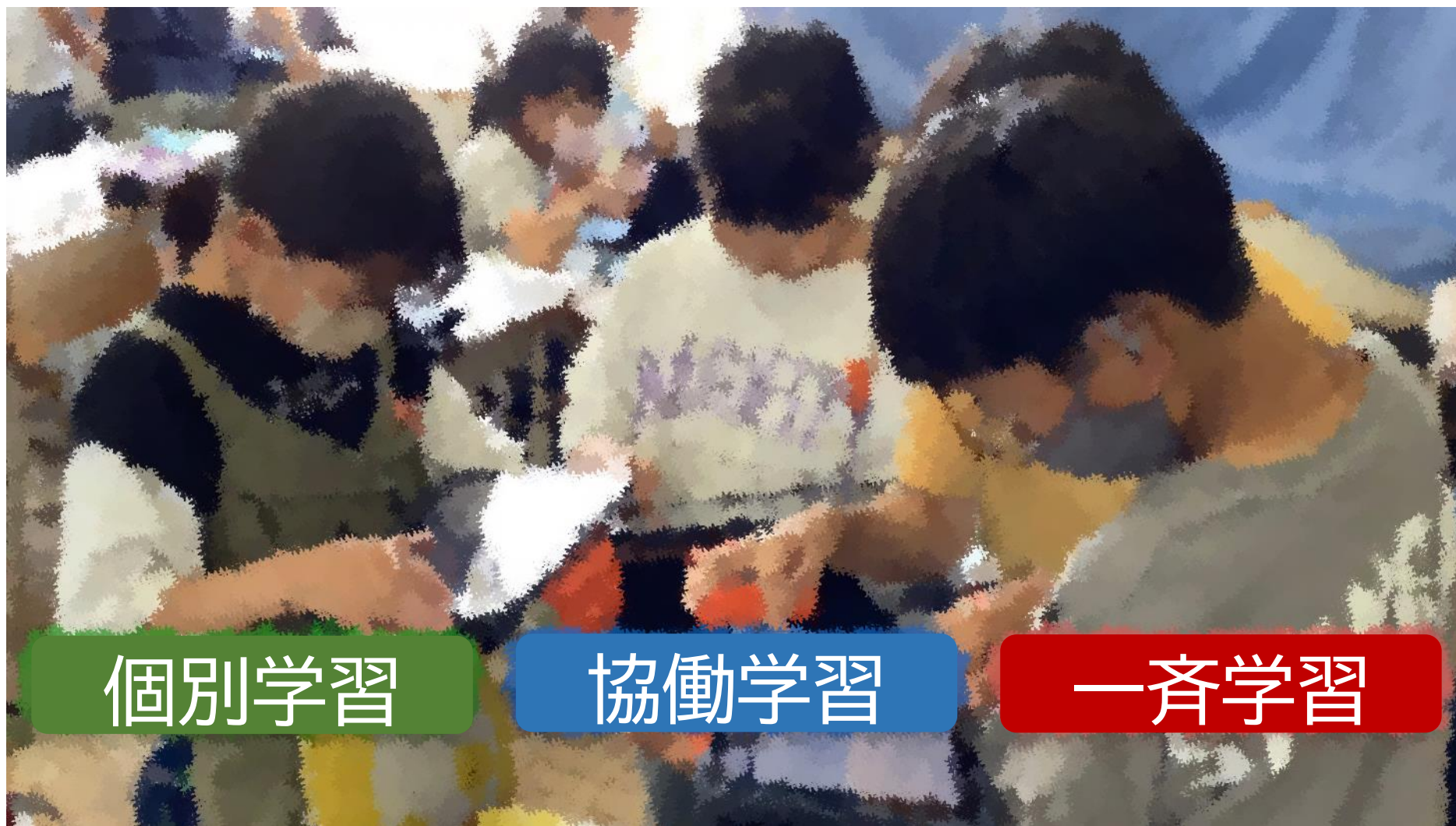
## アウトリーチ支援

総合教育センター指導主事等によるアウトリーチ支援の回数及び対象人数等

	回数	対象人数	主な内容	環境整備
H31			全小中学校を対象としたタブレット端末の使い方	1,000台のタブレット端末の整備
R2	72	936	授業支援システム(スクールタクト)の使い方	1人1台タブレット端末の整備
R3	94	1581	オンライン授業の支援	連絡手段のデジタル化
R4	44	772	授業での効果的な使い方等	デジタル教材の導入 指導者用タブレット端末の整備

学校の要望に応じたきめ細かな支援により、学校におけるICT活用の促進を図った

## 児童生徒の活用風景



個別学習

協働学習

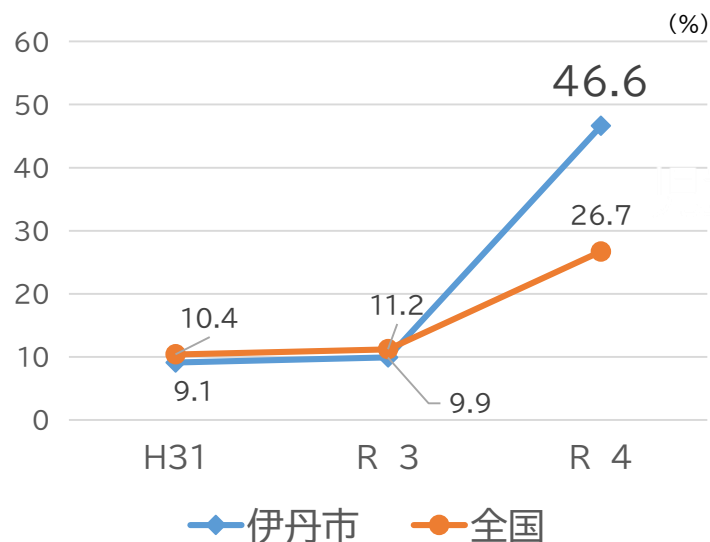
一斉学習

# ICT教育の現状と成果

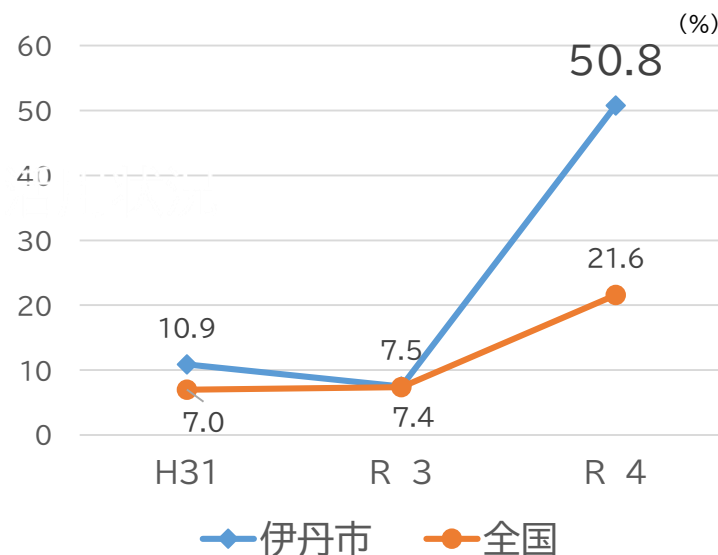
## 児童生徒の活用状況

「授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」に対して、「**ほぼ毎日**」と回答した児童生徒の割合の経年変化  
(全国学力・学習状況調査)

### 小学校



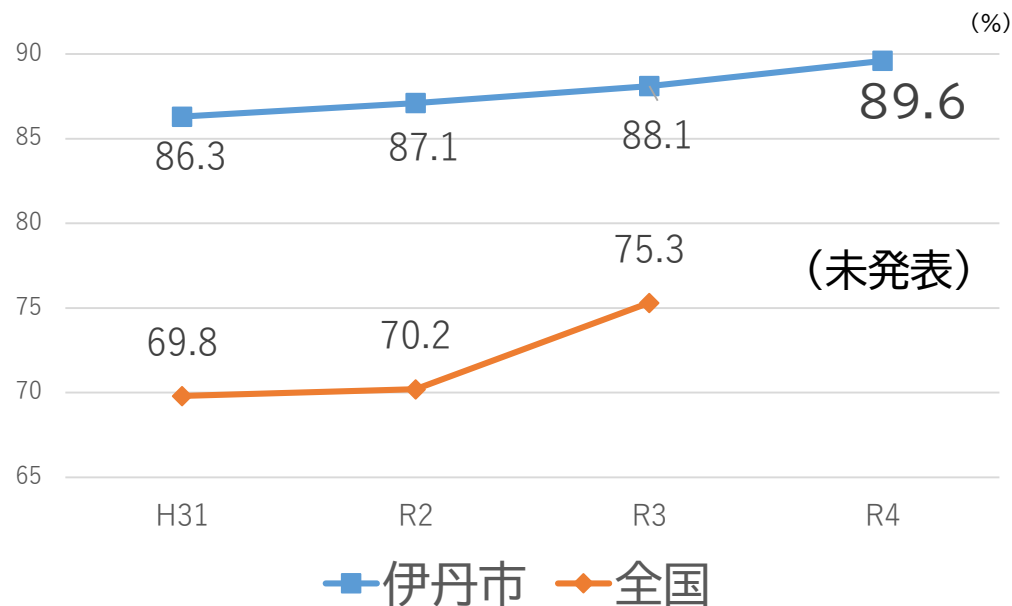
### 中学校



タブレット端末導入後は、小・中学校とも**使用頻度**が全国を大きく上回っている

## 教員のICT活用指導力

教員のICT活用指導力に係る質問への肯定的な回答の割合の経年変化  
(学校における教育の情報化の実態等に関する調査)

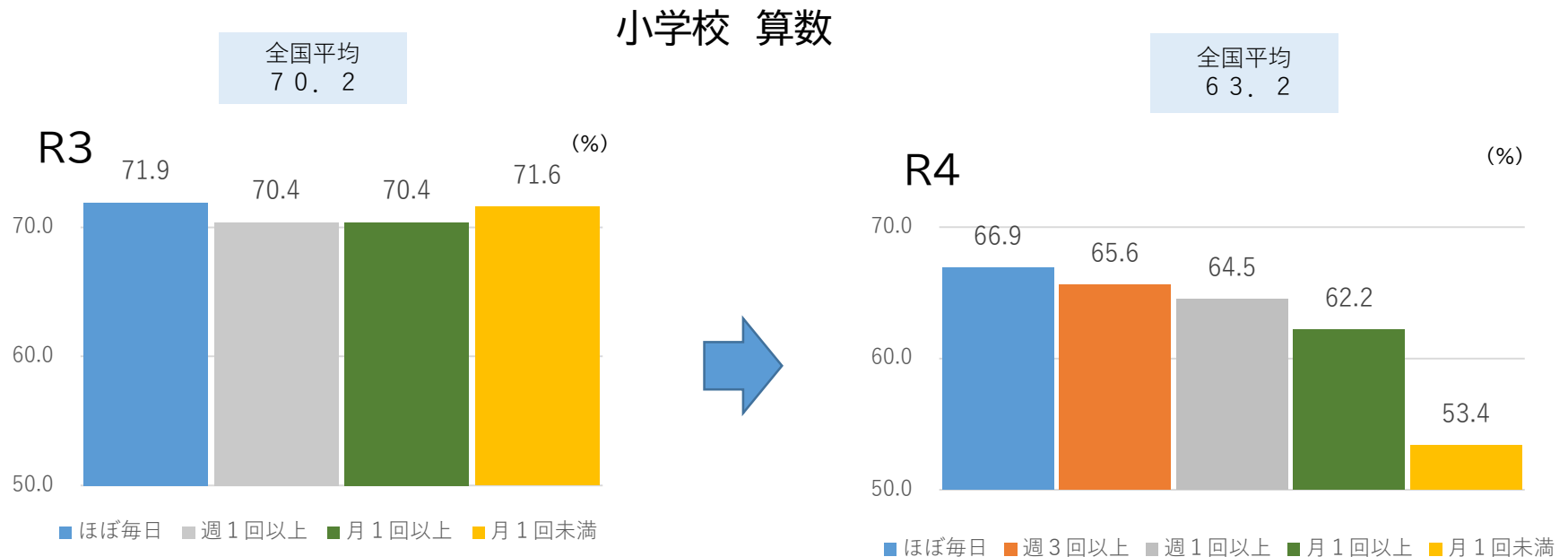


ICT活用指導力が全国よりも高い

# ICT教育の現状と成果

## ICT活用と平均正答率との相関

ICT機器の使用頻度と算数における平均正答率との関係  
(全国学力・学習状況調査 質問「授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」との関係)



令和3年度においては、ICT機器の使用頻度と学力との相関が見られなかったが、令和4年度においては相関が見られる



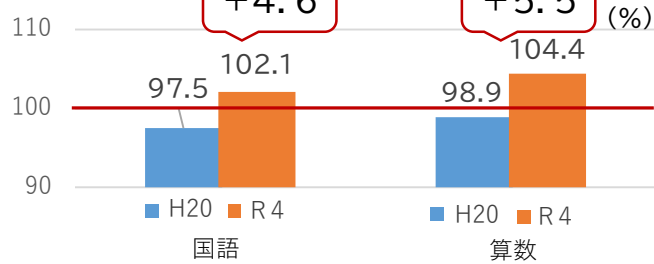
# ICT教育の現状と成果

## これまでの教育の取組の成果

### 平均正答率

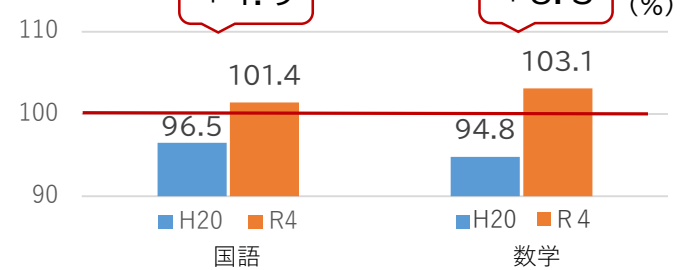
全国の平均正答率を100とした場合の伊丹市の平均正答率の推移(全国学力・学習状況調査)

#### 小学校



向上

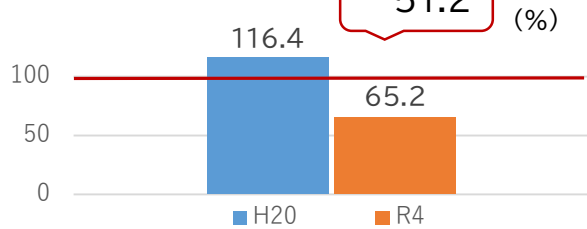
#### 中学校



### 無解答率

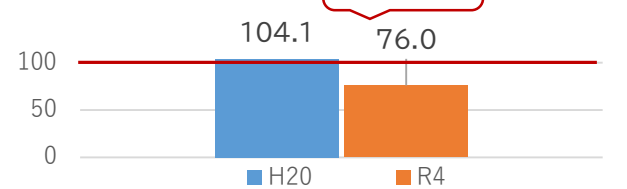
全国の無解答率を100とした場合の伊丹市の無解答率の推移(全国学力・学習状況調査)

#### 小学校



大きく改善

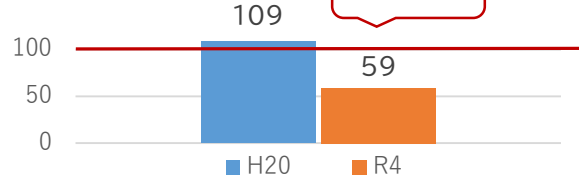
#### 中学校



### 学力低位層

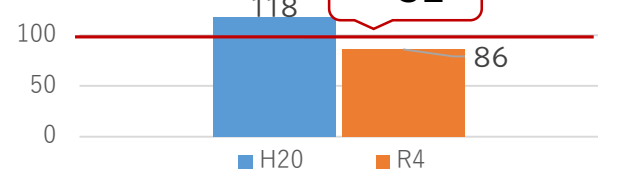
全国の学力低位層(正答率20%以下)の割合を100とした場合の伊丹市の学力低位層の推移(全国学力・学習状況調査)

#### 小学校



大きく改善

#### 中学校



# 生成AIの学校現場での 利用に関する今後の対応

# デジタル社会における教育のめざす姿

## 伊丹市

デジタルがつなぐ 人にやさしいまち **スマートいたみ**

## 伊丹市教育委員会

児童生徒が自分らしく学べ、デジタル社会を生き抜く力を育む、**スマートスクールいたみ**

### 国 デジタル社会の目指すビジョン

誰一人取り残されない、人に優しいデジタル化

### 国 教育のデジタル化ミッション

「誰もが、いつでもどこからでも、誰とでも、自分らしく学べる社会」の実現

## 文部科学省

【5月16日 中教審第1回デジタル学習基盤特別委員会】

### 生成AI(Chat GPT)の学校現場での利用に関する今後の対応

- 学校現場での生成AIの利用については、様々な議論や懸念がある
  - ▷ 批判的思考力や創造性への影響、個人情報や著作権保護の観点等について、リスクの整理が必要
- 一方、学習指導要領では、学習の基盤となる資質・能力として「情報活用能力」を位置付けている。新たな技術である生成AIをどのように使いこなすのかという視点や、自分の考えを形成するのに活かすといった視点も重要

\* Chat GPTを提供するOPEN AI社の利用規約によれば、Chat GPTの利用は13歳以上、18歳未満の場合  
は保護者の許可が必要とされている

# 生成AIの学校現場での利用に関する今後の対応

総合教育会議資料  
伊丹市教育委員会  
令和5年6月30日

## 文部科学省

## ガイドライン ver1.0 (項目イメージ)

【(5月16日 中教審第1回デジタル学習基盤特別委員会)】

\* 政府全体の議論も踏まえ、**夏前を目処**に公表

- **生成AI**についての説明
- **情報活用能力**との関係
- **年齢制限**や**著作権**、**個人情報**の扱い
- **活用**が考えられる場面、**禁止**すべきと考えられる場面
- **授業デザイン**のアイデア  
(生成AI自体を学ぶ授業 + 具体の活用法)

\* 暫定的なものとして公表し、**機動的**に加除修正していくことを想定

## 伊丹市教育委員会

- ・ 総合教育会議での議論(本日)
- ・ 国・県の動向を注視し、総合教育会議での議論を踏まえ、研究を継続
- ・ 国・県のガイドラインを踏まえた、市におけるガイドラインの作成
- ・ ガイドラインの項目イメージを踏まえた、夏季休業前の生徒や保護者へのお知らせ
- ・ 学習基盤となる情報活用能力の育成(生成AIをどのように使いこなすのか)